新国立劇場バレエ団　２０１４／２０１５ シーズンバレエ オープニング公演

眠れる森の美女 The Sleeping Beauty

2014 年 11 月 8 日（土）～11 月 16 日（日）　全 6 回公演
新国立劇場　オペラパレス

永遠の名作バレエが、新国立劇場バレエ団のオリジナル版として待望の新制作。流麗で多様な音楽、格調高く色彩豊かな衣裳や舞台美術、そして新国立劇場バレエ団のための振付が融合した、総合芸術たるバレエの魅力満載の舞台が誕生します。

Photo by 若子 jet

チャイコフスキー作曲の三大バレエのひとつとして世界中で愛されている、バレエ「眠れる森の美女」。物語に応じたその多様な音楽が魅力ですが、他に類を見ないほど多彩な踊りで構成されることも特筆すべき点です。主役級のダンサーが次々とソリストとして登場するため、新国立劇場バレエ団のダンサーの層の厚さを実感していただけることでしょう。今回、マリウス・プティパによる原振付の魅力を活かしながらも、現代的感覚を交えて新たな振付を行うのは、ウエイン・イーグリング。英国ロイヤルバレエのプリンシパルとして活躍後、オランダ国立バレエやイングリッシュ・ナショナル・バレエの芸術監督を歴任した振付家です。自身も振付家であり、舞台美術・衣裳デザイナーとして国際的に評価の高いトゥール・ヴァン・シャイクが衣裳デザインを手がけます。また、川口直次の舞台美術、沢田祐二による照明が、格調高く華やかに舞台を彩ります。
総合芸術としてのバレエの醍醐味を味わえる大作『眠れる森の美女』。大原永子を舞踊芸術監督に迎えての最初のシーズン開幕に相応しいグランド・バレエの誕生に、是非ご期待ください。

写真・資料のご請求取材のお問い合わせ
◎新国立劇場　制作部舞踊　広報担当　中尾久美子

新国立劇場 NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

TEL：０３－５３５２－５７３５ ／FAX：０３－５３５２－５７０９

◎作品について

【あらすじ】

＜プロローグ＞

国王と王妃が娘のオーロラ姫の誕生を祝って祝宴を開いている。そこにリラの精がお付きを従えて現れる。姫への贈り物を携えて優しさの精、元気の精、鷹揚の精、呑気の精、勇気の精たちも姿を見せる。召使いがあわてふためいて現れ、恐ろしい客の到来を告げる。式典長カタラビュートが招待し忘れてしまった悪の精カラボスがやってきたのだ。年老いて醜悪な姿のカラボスが激怒して乗り込んでくる。カラボスは「姫は編み針が指に刺さって死ぬだろう」と予言する。リラの精は姫の身を守ることを誓い、父である王は予言を阻止すべく国内での編み針の使用を禁じる。

＜第1幕＞

オーロラ姫の 16 歳の誕生日、村の若者たちもお祝いのために花束を用意している。賑やかにパーティーが開かれ姫の花婿候補も宮殿にやってくる。老婆からバラの花束を受け取ったオーロラ姫はくるくる回りながら楽しげに踊っているが、突然ぐったりとして倒れてしまう。花束の中に編み針が隠されていたのだった。そのとたん、老婆がマントを脱ぎ捨てるとカラボスが正体を現し、高笑いをしながら姿を消す。リラの精はカラボスの魔法を完全に消すことはできなかったが、死の予言を眠りに変えることができた。リラの精の魔法の杖の一振りで王国全体が長い長い眠りにつく。

＜第2幕＞

100 年が過ぎ、森ではデジレ王子たちが狩りをしている。王子が一人になるとリラの精が現れ、王子にオーロラ姫の幻影を見せる。オーロラ姫の幻影に魅せられた王子は、オーロラ姫に会うためにリラの精とともに深い眠りに沈んだ宮殿に向かう。樹々が生い茂る宮殿の前には、眠りの王国へ侵入するものを追い払うためカラボスたちが番をしている。しかし悪の精カラボスもリラの精の前では無力であった。デジレ王子は、ついにオーロラ姫を探し出し接吻する。すると姫は目を覚ます。

＜第3幕＞

二人の結婚式にはおとぎ話の登場人物たちもやってきてお祝いをする。フロリナ王女と青い鳥、長靴を履いた猫と白い子猫、赤ずきんと狼・・・。最後にオーロラ姫とデジレ王子がしあわせいっぱいに踊る。

Photo by 若子 jet

◎作品の上演にあたって

＜大原永子舞踊芸術監督からのコメント＞

・「芸術監督として1年目のシーズンに、グランド・バレエ『眠れる森の美女』を新制作で上演するのは冒険かもしれません。1997 年 10 月の開場記念公演は『眠れる森の美女』でした。四ヶ月という長いリハーサル期間を経て初日を迎えた、バレエ団の記念碑的な作品です。プティパの作品は、時代の流れの中でさまざまな形で再演出されてきましたが、この作品は、ヨーロッパの薫りが感じられる、洗練された演出で上演したいと考えました。現代の新国立劇場にふさわしい、新しい演出であり、かつ原型をとどめた振付をできる方ということで、ウエイン・イーグリングさんにお願いしました。衣裳、指揮は、イーグリングさんとこれまでも仕事をしてこられた方々です。装置と照明は日本のデザイナーが担当します。国境を越えた芸術家たちの協力による新しい「眠れる森の美女」が生まれるのです。」(「The Atre」2014 年 5 月号より一部抜粋)

＜振付家ウエイン・イーグリングからのコメント＞

・「大原永子氏からの依頼は私にとって素晴らしいサプライズでした 2012 年の 12 月のアシュトン版『シンデレラ』で新国立劇場バレエ団の舞台を観て、自分自身が何度も踊ったことのある、まさに精通した作品でしたので、ダンサーたちの水準がかなり高いことが分かりました。今回の『眠れる森の美女』は、プティパの振付に基づき、皆さんが思うところのオリジナルのイメージを生かしながらも、既存の演出とは一線を画したものにしたいと考えています。ベースとしては伝統を守り、大きな変化は与えていませんが、現代に即したものにすることを目指しました。ダンスに光をあて、そぎ落とすべきところは落としています。…この作品は子供向けのおとぎ話と思われがちですが、バレエとしては洗練され、完成度の高いものです。プティパはバレエの枠組みをつくり、ダンスを際立たせました。私はそのダンスに意味を持たせたい。たとえばプロローグでは、妖精のソロ、ソロ、ソロ……といくつものソロが続きますが、単なるヴァリエーションの連なりにするのではなく、意味を持ったものにしたいのです。そのためにマイムも慣習的なお約束にとどまることなく、非常に高いレベルの表現にします。現代の聴衆に、今舞台で何が行われているかを自然に理解してもらえるような表現です。悪の精カラボスは、男性がマイム役として演じる版もありますが、今回は女性がポワント(トゥシューズ)で踊る役にしています。というのも、私はカラボスを妖精のひとりとして位置づけているからです。リラの精が体現する正義と、カラボスが体現する悪が対峙します。ここに焦点を当てたかったのです。カラボスはリラの精と同等の強さを持ち、同じように美しい女性でなければなりません。カラボス役には私が新たに振付を行いました。」(「The Atre」2014 年 6 月号より一部抜粋)

◎衣裳について

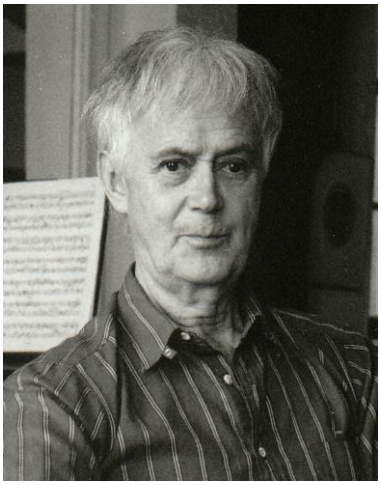
数ある古典バレエの中でも、その登場人物の種類及び人数の多さは、この作品の特筆すべき点でしょう。そして、その特質を最も実感できるものの一つが、衣裳です。本作品の衣裳を担当するのは、トゥール・ヴァン・シャイク。ヴァン・シャイクは、ダンサーとして活躍後、オランダ国立バレエの常任振付家として活躍。さらに舞台美術・衣裳デザイナーとして国際的に評価が高く、また、著名なビジュアル・アーティストでもあります。ヴァン・シャイクとイーグリングは、オランダ国立バレエで長年コラボレートしている間柄です。ダンサーとしての経験抱負なヴァン・シャイクは、今回の衣裳は、豪華でありながらもダンサーにとっては動きやすいものになると語っています。また彼は、物語の背景や登場人物の性格や状況を色濃く反映した衣裳デザインを心がけているため、よりお客様に物語の世界に深く浸っていただけるに違いありません。

◎プロフィール

【振付】
ウエイン・イーグリング
Wayne Eagling

カナダのモントリオール生まれ。ロンドンのロイヤル・バレエ学校で学び、卒業後1969年に同バレエ団に入団。1972年にソリストに、1975年にはプリンシパル・ダンサーに昇進。ロイヤル・バレエ団のレパートリーのうち、主たる古典的な役の全てを踊り、マクミラン、アシュトン、バランシン、ロビンス、ハンス・ファン・マネン、ノイマイヤー、ヌレエフ、ビントレーといった振付家の作品に出演した。1983年、ロイヤル・バレエ・スクール用に「R.B.Sque」、1985年、コベント・ガーデンでの公演用に（オランダ国立バレエ、スカラ座でも上演）「フランケンシュタイン、現代のプロメテウス」、1996年にコベント・ガーデンでの公演用に「美女と野獣」を創作。1989年、ベルリンの壁の崩壊の際には「ウォール・コンサート」の振付けを、またポップ・グループ、クイーンのビデオ「ブレイク・フリー（自由への旅立ち）」の振付けを担当。91年にダンサーとしての現役を引退し、その後13年間、オランダ国立バレエの芸術監督を務める。オランダ国立バレエのための振付作品としては、「Ruins of Time」（1993年）、「波のシンフォニー」（1994年）、「デュエット」（1995年）、「Lost Touch」（1995年）、「Holding a Balance」（1996年）、「くるみ割り人形とねずみの王様」（1996年。トゥール・ヴァン・シャイクと共に振付けを担当。フィンランド国立バレエでも上演）、「魔笛」（1998年）、「春の祭典」（2000年）。そのほかには、「アルマ・マーラー」（1994年　ミラノ・スカラ座）、「ラスト・エンペラー」（1997年　香港バレエ団）、「メアリー・スチュアート」（2004年　ローマ・オペラ座）、「タイス」（2005年　ローマ・オペラ座）、「美女と野獣」（2012年　クレムリン・バレエ団）を創作。2005年から2012年までロンドンのイングリッシュ・ナショナル・バレエの芸術監督を務めた。イングリッシュ・ナショナル・バレエのために、「レゾリューション」（2008年）、「Men Y Men」（2009年）、「くるみ割り人形」（2010年）、「遊戯」（2012年）の振付を行う。

【衣裳デザイン】
トゥール・ヴァン・シャイク
Toer van Schayk



photography：Marie-Jeanne van Hövell tot Westerflier

アムステルダム生まれ。1955 年～1959 年までネザーランド・バレエで踊るが、ハーグ王立芸術アカデミーにて彫刻を学ぶために一時、ダンサーとしてのキャリアを中断する。1965 年ダンスの世界に戻り、オランダ国立バレエでソリストとして活躍。
1971 年に振付家としてデビュー。1976 年、オランダ国立バレエの常任振付家に指名され、30 を超えるバレエ作品を創作。作品は、世界的なバレエ団でレパートリーとして上演されている。また、著名な視覚芸術家でもあり、世界各地で展覧会を開催している。
1996 年「くるみ割り人形とねずみの王様」の舞台美術と衣装をデザインして賞賛を浴びる。本作品ではウェイン・イーグリングと共に振付けも担当し、ヘルシンキとワルシャワで上演された。1999 年、再びこのコラボレーションでノーカット版バレエ「魔笛」を創作。同年、演出家ヨープ・ファン・デン・エンデによる、ミュージカル「エリザベート」の振付を担当。2003 年、ヴァン・シャイクはフレデリック・アシュトンの「シンデレラ」の新制作を担当し、英国ロイヤル・バレエでの舞台美術デザイナーとしてデビューを果たした。また、「ロミオとジュリエット」の舞台美術デザインを行い、2009 年にオランダ国立バレエの新制作バレエ「ジゼル」の舞台美術デザインを担当した。2011 年、振付家および舞台美術・衣装デザイナーとしての業績で、ブノ

【装置】
川口直次
Kawaguchi Naoji

1962 年日本放送協会に入局。大河ドラマなどテレビドラマの美術で活躍するかたわら、オペラ・バレエ・演劇などの舞台美術を数多く手がける。77 年伊藤熹朔賞受賞。83 年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。日本放送協会を退職後、武蔵野美術大学で、舞台美術、映像美術の教育に携わる。新国立劇場では、バレエ『パキータ』『こどものためのバレエ劇場 シンデレラ』、オペラ『セビリアの理髪師』『トスカ』『こうもり』の美術を手がけた。バレエの代表作としては、『新 白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』(松山バレエ団)、『ドン・キホーテ』(牧阿佐美バレエ団)など。近年手がけたオペラ作品としては『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』(名古屋二期会)、新作オペラ『いのち』(長崎県オペラ協会公演)などがある。オペラ、バレエのほかに演劇や映画の美術を多数手がけており、代表的な映画作品に伊丹十三監督作品『静かな生活』『スーパーの女』『マルタイの女』がある。武蔵野美術大学名誉教授。

【照明】
沢田祐二
Sawada Yuji

東京生まれ。文化庁派遣在外研修性としてロンドン、ベルリンで演劇、オペラ、バレエの照明法を学ぶ。現在は演劇、オペラ、バレエ、ミュージカルなど幅広いジャンルで照明デザイナーとして活躍。新国立劇場におけるバレエの公演では『シンデレラ』『ロメオとジュリエット』『ライモンダ』『白鳥の湖』『ジゼル』『マノン』『カルメン』『オルフェとエウリディーチェ』『椿姫』『火の鳥』『パゴダの王子』など。日本バレエ協会公演『白鳥の湖』『ジゼル』『眠れる森の美女』『アンナカレニーナ』なども手掛ける。他に新国立劇場ではオペラで『カルメン』『魔弾の射手』『黒船』『修善寺物語』『鹿鳴館』『夜叉ヶ池』など。演劇では『城』『わが町』『アジア温泉』『ピグマリオン』。第1、10 回照明家協会賞大賞、文部大臣奨励賞。第1回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞。第 33 回紀伊国屋演劇賞。第1回橘秋子舞台クリエテイブ賞を受章。

【指揮】
ギャヴィン・サザーランド
Gavin Sutherland

イングリッシュ・ナショナル・バレエ(ENB)の音楽監督。指揮者、作曲家、編曲家、ピアニストとして国際的に活躍している。「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」「エクスタシーと死」(ENB)、「アラジン」(バーミンガム・ロイヤルバレエ)で指揮している。デンマークのオールボー交響楽団、ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団と共演している。今後は、BBC やデンマーク王立吹奏楽団との共演も予定されている。ボーンマス交響楽団、BBC コンサートオーケストラ、ミュンヘン放送管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、オーストラリア・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ニュージーランド交響楽団、RTE コンサートオーケストラ、BBC ウェールズ交響楽団、ウェリントン・シンフォニア、オークランド・フィルハーモニア、北イングランドコンサート・オーケストラ、スコットランドオペラ・オーケストラ、ヨハネスブルグ祝祭管弦楽団を定期的に指揮している。また、ロイヤル・ニュージーランド・バレエのゲスト首席指揮者を務めており、ロイヤル・バレエ・シンフォニア、ノルウェー国立バレエ、南アフリカ・バレエ・シアターでも指揮している。編曲家や作曲家としての活動も積極的に行っており、レイモンド・ガベイのコンサートで指揮と編曲を担当した。BBC 交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団、オーストラリア・フィルハーモニー管弦楽団、ニュージーランド交響楽団、ロイヤル・オペラ・ハウス、ハレ管弦楽団へ編曲を行っている。ミュージカル「little women」、クラリネット協奏曲、室内楽曲、バレエ「Revolting Rhymes」(へそまがり 昔ばなし)、チャイコフスキーの音楽を使った子供向けのバレエ2作品、ウエイン・イーグリングのバレエ作品「Men Y Men」のためにラフマニノフのピアノ曲を編曲している。ピアニストとしては、コンサートのソリスト、伴奏、室内楽奏者として定期的に活動し、80 枚を超える CD をリリース。

◎キャスト

11 月	8(土) 2:00	9(日) 2:00	11(火) 6:30	13(木) 2:00	15(土) 2:00	16(日) 2:00
オーロラ姫	米沢 唯	小野絢子	米沢 唯	長田佳世	瀬島五月	小野絢子
デジレ王子	ﾜﾃﾞｨﾑ･ﾑﾝﾀｷﾞﾛﾌ	福岡雄大	ﾜﾃﾞｨﾑ･ﾑﾝﾀｷﾞﾛﾌ	菅野英男	奥村康祐	福岡雄大
カラボス	本島美和	湯川麻美子	本島美和	湯川麻美子	本島美和	湯川麻美子
リラの精	瀬島五月	寺田亜沙子	瀬島五月	寺田亜沙子	寺田亜沙子	寺田亜沙子

【オーロラ姫】

米沢 唯
（8、11 日）

小野絢子
（9、16 日）

長田佳世
（13 日）

瀬島五月（貞松･浜田バレエ団）
（15 日）

【デジレ王子】

ワディム･ムンタギロフ
（8、11 日）
（シーズンゲストダンサー）
（英国ロイヤル･バレエ プリンシパル）

福岡雄大
（9、16 日）

菅野英男
（13 日）

奥村康祐
（15 日）

【カラボス】

本島美和
（8,11,15 日）

湯川麻美子
（9,13,16 日）

【リラの精】

瀬島五月
（8,11 日）

寺田亜沙子
（9,13,15,16 日）

◎公演概要

【タイトル】　眠れる森の美女

【芸術監督】　大原永子
【音楽】　ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
【振付】　ウエイン・イーグリング（マリウス・プティパ原振付による）
【装置】　川口直次
【衣裳】　トゥール・ヴァン・シャイク
【照明】　沢田祐二
【指揮】　ギャヴィン・サザーランド
【管弦楽】　東京フィルハーモニー交響楽団
【出演】　新国立劇場バレエ団

【公演日程】
2014 年 11 月 8 日(土)2:00 ／ 9 日(日)2:00 ／ 11 日(火)6:30／
13 日(木)2:00／ 15 日(土)2:00／ 16 日(日)2:00
【会場】 新国立劇場 オペラパレス （京王新線 新宿駅より 1 駅、初台駅中央口直結）
【主催】 新国立劇場
【前売開始】好評発売中
【料金(税込)】S:16,200 円　A:12,960 円　B:8,640 円　C:6,480 円　D:3,240 円

◎チケットのお求め・お問い合わせは
新国立劇場ボックスオフィス TEL:03－5352－9999（10:00～18:00）
新国立劇場 Web ボックスオフィス http://pia.jp/nntt/ （PC、携帯共通）
チケットぴあ http://pia.jp/t/ (PC、携帯共通)、
イープラス http://eplus.jp/nnttballet/ (PC、携帯共通)
ローソンチケット、CN プレイガイド ほか

＊新国立劇場では、高齢者割引(5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。